

<概要>

令和6年7月4日

「学校運営協議会」議事録

- 1 日 時 令和6年7月4日 13:00～14:35
- 2 場 所 徳島科学技術高等学校 大会議室
- 3 出席者 <委員> (敬称略)
井内亮一、大栗一敏、大坂浩嗣、柏木美保、加渡義治、久我直人、寺内カツコ、
鎌田敏文 (学校長)
<学校>
(全日制) 植木教頭、近藤教頭、青山企画部長、藪内
(定時制) 尾形教務課長
- 4 協議内容
 - (1) 委員の任命
 - (2) 学校運営協議会 (コミュニティスクール) の概要説明
 - (3) 会長・副会長の選出
会長：久我委員
副会長：加渡委員 を選出
 - (4) 「本校の概要」及び「学校経営の基本方針」の説明
スクールポリシーの内容を含め、特に本年度はSSHについて力を入れていることを説明した。
 - (5) 学校評価総括表説明 全日制・定時制
本年度取り組んでいる項目を、全日制と定時制のそれぞれについて行った。
 - (6) 学校運営上の課題について 全日制・定時制
学校運営上の課題について説明を行った。
 - (7) 質疑応答
 - ・定時制の就職状況について教えてほしい。
→アルバイトから正社員に採用される生徒を含めて6～7割である。生徒には就職の話をする
ことすら困難な生徒もいる。
 - ・県外大学進学者に、県内就職を勧めている状況はどうか。
→大学1、2年生については連絡もとれているが、3年生以降とれていない状況にあり、県内
就職を勧められていない。
 - ・各高校の中身がわからないまま進学していることが、不本意入学につながっているのではない
か。
→一部の生徒ではあるが、親や先生に勧められるまま入学してきている。
 - ・城西中学校では、徳島科学技術高校への体験入学の希望者が非常に多い。

- 希望者が多いことが、進学・就職への好循環となっている。
- 中学生の進路選択においては、親の影響が大きい。小・中・高・大とキャリア教育が重要になる。
- ・県外の大学生が、徳島に希望する職種の企業がなく、県外に就職を考えている。
- ・大学生が高校生の時に、もっと理科の勉強をしておけばよかったと言っている。
- ・勉強嫌いの生徒が定時制卒業後、資格取得に向けて頑張っている。
 - 学ぶことの意義を高校で教わったということで、学校の存在意義である。
- ・工業高校の卒業生は、普通科高校の卒業生と比べて、社会に必要な人間性を身に付けているように感じる。
- ・県外大学生が県内に就職してもらえないのは、県内企業、特に中小企業の魅力が足りない。魅力ある企業になる必要がある。
- ・進学、就職と本校の活躍がすごい。
- ・加茂地区避難所運営連絡協議会と1次避難先・2次避難先について協議が必要。
- ・地域住民の避難場所が、5階になっているが年齢を考慮してほしい。

5 事務連絡

次回は、11月を予定している。